

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300276		
法人名	医療法人 山育会		
事業所名	グループホームサンシャインわたらせ		
所在地	群馬県桐生市元宿町2115-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日散歩に出かけることで下肢筋力低下を防ぎ、地域の方々と顔見知りの関係を作っている。</li> <li>・日々の生活の中で、利用者様の持っている能力を見極め、掃除、調理、買い物、洗濯物たたみなどを行って頂くことで、役割を持ち張り合いにつながるようなケアを実践している。</li> <li>・イベント交流を定期的に行い、外出する機会を増やし、毎日の生活に楽しみや喜びを感じられる取り組みを行っている。</li> <li>・毎月異なる想定で避難訓練を行い、避難経路や利用者様の動きを把握できるように努めている。</li> <li>・施設のイベントや慰問時に地域の参加があり交流が活発に行なっている。</li> <li>・地域の公共花壇に利用者様と一緒に水やりを毎日行っている。</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>適正な運営に真摯に取り組む姿勢を持ち、前年度立てた「目標計画」を全て達成している。災害対策においては、万が一に備えて自主訓練を毎月行い利用者が避難できるよう取り組んでいる。法人の関連施設で培った経験知を活かしてケアにあたり、そうしたなか、関連施設合同でのイベントを開催し交流を楽しんでいる。また、組合が組織され就労環境が整っている。職員は責任感を持って介護にあたり、穏やかに接するなかで、一人ひとりのペースに合わせた対応が行われている。医療面においても24時間の体制が整っている。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員同士で考えた事業所独自の理念があり、玄関や事務所に掲示することで常にその意義を意識しながらのサービス提供が行えている。	法人は複数の事業所を経営しており、事業所毎に理念を定めている。当事業所の理念は、平成26年の設立の際に職員間で話し合って策定し、誰にでもイメージし易いように、皆の願いをわかりやすく表現したものである。そのため、自分の仕事を振り返る際の道しるべとして、これからの仕事の指針として活用している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日散歩に出かけ挨拶や会話を交わしている。防火訓練やイベントの際には手作りのチラシを一軒一軒に配布して参加をお願いし、交流を深めている。	自治会に加入し、地域行事に参加している。自治会長と話し合い、神輿の休憩所として利用してもらったり、事業所で開催する演奏会には近隣の方を招待したりしている。花の種を届けてくれる方もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方についての相談は随時行っている。 介護サポーターの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動の内容を報告し、意見や提案をいただいている。 議事録は各ご家族にも渡し、玄関やフロアに掲示している。ミーティングの時に、話し合いを行いサービス向上に繋げている。	2ヶ月に1回開催し、区長や民生委員、長寿会長、市及び地域包括支援センターの職員や利用者家族が参加している。区長から慰問やボランティアの紹介、市から講習会案内や季節にみあった健康管理法の説明などがあり、そうしたなか行事開催や防災マニュアルの作成予定がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、意見やアドバイスをいただいている。介護保険を更新する際の手続きを行っている。	「認知症相談窓口」として、いつでも相談を受けられる体制があることを伝えている。自治会長と話し合い、市に貢献できることとして、地域にある市の浄水場の水まきを利用者と一緒に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動を制する拘束、言葉での拘束をしないケアを実施している。玄関やフロアからウッドデッキに自由に出られる。利用者様の行動を尊重している。	玄関ドアが開くと、インターフォンで知らせる仕組みになっている。利用者の姿を確認すると、職員は一緒に外に出て散歩している。ホールのサッシは施錠せず、自由にウッドデッキに出入りできる。居室の窓は、開け放されている。	定期的に勉強会を開催し、職員間で拘束の内容とその弊害を認識し理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組まれるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時やトイレ付き添い時にアザや外傷の観察を行い、確認された際には原因を職員間で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業を利用されている方が1名いる。 必要だと管理者が判断した際には説明や利用検討を行うなどの支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にご本人とご家族には出来るかぎり見学をしていただいている。 この際に契約について説明し、疑問や不安な点についてお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時にも家族と積極的に話し合い意見をいただいている。 運営推進会議でも意見や提案をいただき、ミーティングの際に職員間で話し合いを行っている。	事業所行事について花見やバーベキューの提案があり、法人で検討し年間行事として合同でさんま焼き大会を開催している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人に職員の組合がある。 年に3回経営労務会議が開催され、職員から出された意見や要望を基に、法人代表との話し合いが行われる。	組合には、全職員が加入している。経営労務会議には、5つのブロックから代表が出席し、ユニフォームの支給や、子育て中の就労条件、託児所の利用など、働きやすい職場環境づくりについて話し合っている。法人は、全ての意見に回答し、可能な限り対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内でのQC活動や感動大賞等のテーマを設けての発表、表彰を行い、職員の意欲向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講演会等の案内を事務所に掲示誰でも参加できるようにしている。 各施設に研修係を置き、学びたい事等をアンケートし、勉強会を定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	レベルアップ研修への参加・受け入れを行い、他施設の良い点は積極的に取り入れて行く取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な事や困っている事、どのような生活を送りたいかを把握するためコミュニケーションを図り、言葉で上手く表現できない利用者様に対しては、行動と言動から意味を探る事で信頼関係を深められるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご本人ご家族に施設を見学していただき、不安な点や要望等を確認している。 入所後も面会時に情報収集を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員・ケアマネが直接ご本人ご家族よりお話を伺い、ご本人に出来る事と出来ない事を判断しながら、まず必要としている支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が今持っている能力を活用し、時には教えていただきながら調理や買い物、裁縫などを一緒に行い、お礼の言葉を必ず伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行い、自宅で過ごした際には、その様子をご家族より伺い、ケアに生かしている。 家族交流会を行い、一緒に過ごせる時間を設けている。 個々のわたらせ便りを毎月家族に送り日常の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも受け入れている。 知人や親せきの面会があった際は、ご家族へ連絡している。 また趣味のサークルや以前住んでいた地域の新年会に参加している方もいる。	入居前に参加していたサークルや友人との新年会が継続できるよう、必要に応じた支援を行っている。また、遠方に住む家族と毎週スカイプ通信ができるよう支援している。その他、集会場での夏祭りや地域の神社の祭り、墓参りや馴染みの美容院等に出掛けている。数名の方が、新聞を購読している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出等、毎日の生活の中で一緒に楽しむ機会を設けている。 集団が苦手な方には職員が間に入り、孤立させず過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は職員が利用者様と一緒に お見舞いに行っている。 退所された後には、ご家族にイベントのお誘いを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、ご本人の生活歴を把握し、日々の生活でも言動から思いをくみ取れるように希望や意見の把握に努めている。	生活歴を知り、庭仕事や針仕事、絵画、外出など、趣味や特技を楽しめるよう支援している。意思表示が困難な方には、職員から言葉かけをしたり、行動で働きかけたりして、その人の反応を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネからこれまでの生活歴を伺い、把握に努めている。 また、職員がいつでも確認できるようファイリングされている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時の利用者様の心身の状態に合わせ臨機応変に対応できるよう心がけている。 職員が環境を整え、その人の出来る事を維持している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや申し送り、カンファレンスで話し合い、現状に添ったケアプランの作成とモニタリングを行っている。	契約時の家族からの聞き取りと、本人の様子観察を基に、職員全員で話し合いを行い、ケアマネジャーが介護計画を作成している。担当制を採っており、担当職員が毎月1回モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌とケアプランと一緒にファイルしてあるので、常に確認しながら記録できる。改善点や変更がある際は申し送りノートに記入し、職員全員が統一したケアができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、同法人内の介護施設や病院が利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに招待していただいている。ボランティアサークルの方々に踊りや演奏を行って頂いている。防火訓練では消防署に協力していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望のかかりつけ医を確認している。ご家族が受診困難な場合は職員が受診支援を行っている。受診結果の確認、報告は必ず行っている。	法人の診療所から2週間に1回往診があり、全員が受診している。主治医及び訪問看護師が、24時間体制で対応している。関連病院の受診は職員が付き添い、他科の通院は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護の来設があり、状態報告、相談を行っている。夜間急変があった場合にも協力してもらえる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後のスムーズな受け入れができるよう、ご家族、病院側と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護及びかかりつけ医、他医療機関との連携を取り、できるだけご本人、ご家族の希望に添った方針を立てて行く。訪問看護師によるターミナルケアの勉強会を行っている。	全身状態が低下した際に家族の意向を確認する、としている。開設して2年であり、まだ看取りの経験はないが、今後家族の希望があれば対応していく考えである。職員は、看取りについての勉強会を行っている。	看取りの指針を策定して、入居時より家族に説明し、不安なく利用して頂けるよう努められたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命講習を受講しており、初期対応の訓練を定期的実施している。AEDが設置しており、緊急マニュアルが事務所に掲示されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、様々な想定で避難訓練を行っている。年に2回、消防署と地域の方々にも参加して頂き、防火訓練を行っている。	災害対策マニュアルを整備し、地域の方に「災害時協力委員」を依頼し、年2回の訓練に参加していただいている。その他、毎月1回自主訓練として、突然の警報による避難訓練を行い、課題を確認して共有している。岩手県の水害事故を受けて、水害への対応訓練も行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は必ず苗字にさん付けでお呼びしている。 その方に合った声のトーン、速さで、分かりやすい声かけを行っている。常に尊敬と感謝の気持ちを持って接している。	声かけは丁寧に行い、自尊心を尊重した会話が行えるよう気をつけている。居室に入室する際には、ノックや声かけを行う。トイレ誘導の際には、周囲の方に気づかれないように、「ちょっと一緒に・・・」と声をかけ、それぞれのレベルや希望に合わせた方法で見守りと介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者様を主体として考え、要望、希望を傾聴し、自己決定が出来るよう支援している。本人からの希望が聞けない時は、家族からの情報も取り入れている。お茶も、色々揃えて、選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで過ごして頂くことを第一に考え、心身の状況に合わせた臨機応変な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、着替えの服を一緒に選んだり、季節に合った服装が出来るよう支援している。また馴染みの美容室へ送迎対応で行かれる方、訪問理美容を利用される方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回手作り昼食を行い、メニュー選びから買い物、調理、片付けまで利用者様の出来る範囲内で職員と一緒にやっている。食事中は音楽を流し、ゆったりとした中でコミュニケーションを図れるよう配慮している。	1日3食、調理された副食類が届き、ホームで炊いた主食と合わせて配膳している。火曜と木曜の昼食は全てホームで調理し、職員も一緒に食べている。年2回、お寿司の日を設け、職員が握りずしを作って提供している。夕食時にはビールを飲む方もあり、食後にはコーヒーや昆布茶も提供している。食事摂取量が低下した方には、主治医と相談して内服薬を調整したり、形態を替えたり、補助食品を提供したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時と15時にお茶の時間を設けている。フロアには常にポットと湯呑みを用意し、いつでもお茶が飲めるようになっている。水分量が少ない利用者様にはお茶ゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを行っている。 利用者様全員、1日に1回は必ず職員が仕上げ磨きを行っているが、拒否があった場合は控える等の配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケア表、個人日誌に排泄の有無を記録、個々の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。 日中は利用者様全員がトイレでの排泄が出来るよう支援している。	出来る限りトイレで排泄できるよう、一人ひとり時間を定めてトイレに誘導している。失禁の回数が多い方にも紙パンツとパットで対応し、排泄レベルの維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日散歩、体操を行い、運動量の確保に努めている。 メニュー決めの際には乳製品や野菜、繊維質をしっかり摂取するよう工夫している。 水分摂取が少ない時には、味を変えて飲みやすくするなどして提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に合わせて、入浴の支援をしている。職員がマンツーマンで対応し、ゆったりとした気分で入浴できるよう心がけている。 利用者様によっては職員や時間を変えることもある。	午後2時から、1日4～5人の方が入浴している。浴室には一人用の浴槽とシャワーが設置されており、マンツーマンでゆっくりと入浴できるよう支援している。拒否のある方には、声かけの方法を検討している。温泉の入浴剤を入れて、入浴後には水分補給をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量が減らないよう散歩や体操、レクリエーションに参加して頂き、外出の機会も設けている。 夜間眠れない方には無理に入床を強要せずお話しをしたり、お茶を提供するなどして安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、薬の説明書により、用法、目的、用量を把握して支援を行っている。内服の際には必ず日付、名前を声に出して本人を確認をしている。症状の変化が見られた際にはかかりつけ医、ご家族に相談し、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や裁縫、花植え、買い物など、個々の好みや特技、能力を生かしながら、利用者様が楽しく張り合いを持って行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、散歩に出かけている。 買い物の希望があった際には個別に対応している。 また、地域のお祭りに参加したり、外食や季節の花々を見にドライブへ出かけるなどの支援を行っている。	年間を通して、毎日15分程度の散歩を行っている。花見やドライブへは少人数づつ出掛け、一人あたり月に2回は出掛けられるよう配慮している。その他、雑誌の購入に車で出掛けたり、新聞広告から買いたい物を見つけて出掛けたりしている。家族と一緒に出掛ける際には、排泄介助の方法などを家族に指導している。外食は、年に数回設けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、お金をご自分で管理されている方もおられる。買い物希望がある際には職員が付き添い、ご自分で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればいつでも電話を利用して頂けるようになっている。携帯電話やパソコンのスカイプでご友人、ご家族と毎週定期的に連絡を取っている方もおられる。年賀状、暑中見舞を職員と一緒に作成して送ったり、手紙が届いた際にはお返事が出せるよう常にハガキや切手を用意してある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、フロア、居室入り口には季節の飾り付けや花を飾り、利用者様の作品を展示している。ベランダには季節の花を植え、成長を見て楽しめるよう工夫している。玄関、廊下、フロアには歩行を防げないよう配慮して物を置いている。	共用スペースは床暖房で、天井が高く、天窓から差し込む陽射しや癒しのある照明器具など、ホーム全体が穏やかな色彩で、心地良く過ごせるよう工夫されている。トイレは3ヶ所あり、風呂は車椅子でも対応できる広さがある。掲示板には、月の行事が記入されたカレンダーが掛けられている。ホールから続いているウッドデッキでは、外気浴をしたり、お茶を楽しんだりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ決まった席はあるが、気の合った方同士で自由に座って頂くことができる。ウッドデッキにテーブルと椅子があり、いつでも日光浴をしたり、お茶を飲んだり、自由に利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具、使い慣れた日用品など自由に持ち込んでいただいております、ご本人が居心地の良い空間で過ごせるよう工夫している。	ベッドと整理ダンスが常設されており、それ以外は個人でテレビやこたつなどを持ち込んでいます。自分で描いた絵や作品展のポスター、家族旅行の写真や誕生日の写真などが飾られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のネームプレートを一緒に作り、個々に認識できるようにしている。玄関から室内まで段差がない構造になっており、廊下、玄関、浴室には手すりが備え付けてある。台所においてもフロア全体が見渡すことが出来る。		